

令和2年第1回広陵町議会定例会会議録（3日目）

令和2年3月3日

○議長（奥本隆一君） それでは、日程1番、一般質問を行います。

3月2日の一般質問に続き、山田議員の発言を許します。

3番、山田議員！

○3番（山田美津代君） 議場の皆さん、傍聴の皆さん、おはようございます。3番、山田美津代です。今回は、4項目にわたりまして、一般質問させていただきます。

まず1番目、町道3号線（百済、松塚間）を安全、安心で通りやすい道へと改善を。

内容、平成28年度9月議会でも質問しましたが、一向に改善がされていません。広陵町百済から大阪など電車で行くのに松塚の駅に出るのが一番近いです。主に通勤・通学の自転車の通行が多いと思われます。バイクの方もおられますし、車で送迎で通る方もおられるでしょう。この道は、事故も多く転落している車もあると聞いています。スピードを出して通る車が多く、自転車で通る方々は冷や冷やして通っています。開発が進み、移り住む方もふえている百済地域の利便性を高めるため、水路やのり面にボックスカルバートなどで自歩道をつくり、広げて安全な町道にすることはできませんか。電車で大阪に仕事に行かれて税金を町に支払っておられる町民の要望を聞く責務があるのではないのでしょうか。大和高田側は、電信柱分広げて通りやすくされています。以前の回答で、高田市と話し合い、検討をするとありますが、どう話し合われたのでしょうか。

質問事項2、これからの広陵町の公共交通はデマンド交通は必要不可欠。

内容、元気号が10月に改編されて町民の不満が続出していること御存じでしょうか。不便になった挙句100円値上がりしたと高田駅御利用の方はお怒りでした。帰りに荷物が多いのに何時間も待たなくてはならない、2時間置きになって不便になった、などなどです。80代、90代の高齢者は、このままでは免許証を返納したくてもできないのです。どうしたら返納できるようになるか考えてみてください。元気号だけでは無理だと町民はわかっています。デマンドは、やればやるだけ利用者がふえ、経費がかかるからやらないと町は言いますが、必要な経費なら出すべきです。国にも交付金を要望すべきです。デマンド交通を実現できる努力を惜しまないでください。

質問事項3、小・中学校給食について。

内容、①給食の生徒へのアンケート結果が20日の全員協議会で発表されました。残食数を減らすためにどうしたらよいかを考え実行することになり、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ることを目的にアンケートが実施されたものですが、この結果をどう分析されて、どう残食を減らす計画ですか。NHKのためしてガッテンでは、炊き立ての

御飯より冷ましておひつに入れた御飯のほうがおいしいと放送されていました。こんな方法も試してみたらいかがでしょうか。

2回目の質問で、このアンケート結果、これをタブレットに入っていますので、ごらんになってください。

②給食無償化はすぐできる多子世帯支援から実施をお願いします。

質問事項4、町独自の給付制奨学金増額を。

内容、20日の全員協議会で高校生への奨学金給付は、300万円で50人分の予算を立てたが、これ、私、広陵中学校5人、真美ヶ丘中学校7人と聞こえたんで、12人と書いてあったんですが、聞きましたら、広陵中学校は5人じゃなくて15人だったそうなので、ここ22人に訂正してください。22人しか申し込みがなく、不用額が168万円出ていると部長から説明がありました。どのようにこの奨学金のことを広報されていますか。知られていないのでは。高校生になれば就学援助制度はなくなります。この町の奨学金不用額を出すより額を上げてみたらもっとお使いいただけるようになるのではないのでしょうか。月1万で年間12万、それでも600万円の予算で組めます。(50人分) 勉学に励む高校生の未来を応援しようではありませんか。

以上4項目、よろしく願いいたします。

○議長（奥本隆一君） ただいまの質問に対し、答弁をお願いします。

山村町長！

○町長（山村吉由君） 山田議員さんの御質問にお答えを申し上げます。

1番目の町道百済3号線を安全、安心で通りやすい道へと改善をとという御質問でございます。

道路は、町民の日常の生活を支えるものであり、通行における安全性の確保は重要であると考えております。百済3号線は、平成30年度に社会資本整備総合交付金事業の新規採択を受けましたが、平成30年度の国からの交付金の内示額が要望額より少なく、測量設計業務を発注する予算を確保できなかったため、平成31年度の交付金と合わせて、令和元年度に委託契約しております。

拡幅計画は、町道百済10号線との交差点から森本池南側の大和高田市行政界までの約550メートル区間について行っております。

現況は、路肩擁壁がない、あるいは非常に低いため路肩部分がのり面となっている区間や、路肩擁壁があっても舗装補修によるオーバーレイなどで、アスファルト舗装面が高くなり、路肩擁壁の天端と段差ができて路面が狭くなっている区間など、道路敷地を有効に使えていないことから、路肩擁壁の嵩上げや新設による有効路面幅の拡幅を検討しています。

拡幅量は、広いところで1メートル程度となりますが、路肩付近の傾斜をなくして通行しやすくすることで、自転車など安全に通行できるようになると考えております。今年度、設計完了させ、令和2年度から順次工事実施できるよう、国に要望してまいります。まず、北側の町道百済10号線の交差点付近の擁壁嵩上げ区間から工事を進めることで、整備延長の進捗を図る予定です。

大和高田市域の市道高60号線は、中和幹線から北側約500メートルが平成28年度までに整備され、幅員は約4.7メートルとなり、路肩の擁壁との段差が解消されたため走行しやすくなっております。未整備の区間は約100メートルとなっています。

大和高田市には、拡幅未整備区間の早期完成と中和幹線から南側の松塚駅までの区間の歩行空間確保について要望書を提出しております。

担当部局との協議では、自転車、歩行者の安全な通行確保に向けて、道路整備の協力を求めるとともに、引き続き、互いの事業進捗の状況を共有して整備を進めることを確認しております。百済地区の住民の皆さんが松塚駅まで安全に通勤・通学できる自転車通行空間の確保に向け道路整備を進めてまいります。

2番目の広陵町の公共交通はデマンド交通は必要不可欠という御質問でございます。

議員からは、10月の元気号の再編により、利便性や運賃面での不満が続出しているとの御指摘でございますが、まず運賃につきましては、町が運行費用の一部を補填し運行を維持しております路線バスの高田新家線や、補填は行っておりませんが、真美ヶ丘地域を運行する路線バスの町外鉄道駅への運賃と同等程度とすることにより、公共交通機関利用時における運賃負担の平準化を行い、元気号と路線バスとの共存を維持するために実施したものであります。利用者等のアンケート調査や住民ワークショップにおいても、容認される妥当な額として200円を設定し、広陵町地域公共交通活性化協議会において承認を得たものです。

また、2時間置きの便となり不便との御指摘をいただいておりますが、中央幹線につきましては、再編後は、前年度と比較しても利用者数が増加していることから、利用者からも理解を得ているものと考えます。元気号は、買い物に特化した運行を行っているのではなく、通勤・通学、公共施設の利用及び買い物など、幅広い目的に対応するためのダイヤ編成となっております。

免許返納に関しましては、返納後の移動の全てを行政が担うのではなく、元気号以外にも路線バスを初めとする公共交通やその他の移動方法があり、それらをうまく使い分けることも必要です。

また、昨年、支えあう地域づくりを目指して発足いたしました「広陵ささえ愛」におきまして、今後、地域課題の解決に向けた話し合いが行われる中で、地域課題の一つとして、高齢者の移動についても議題に挙がるものと考えております。

免許返納ができる社会の実現と持続可能な行政運営のためにも、自助、共助、公助の3要素がうまく結びつかないといけません。これらの3要素が結びつく社会の実現並びに最

新の公共交通を取り巻く動向を捉えながら、効率的かつ便利で持続可能な広陵町の公共交通のあり方について複合的に研究し、よりよい公共交通サービスを提供してまいり所存でございます。

3番目、4番目は、教育長がお答え申し上げます。

私からは、以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 植村教育長！

○教育長（植村佳央君） 山田議員さんの三つ目の質問、小・中学校給食について、お答えをさせていただきます。

質問一つ目の中学校給食のアンケート結果の分析につきましては、「給食を美味しく感じる」、「普通と感じる」と回答した生徒が合計で70%を超えており、中学1年生に給食時間が短いと感じる生徒が多い傾向でありました。その要因としては、準備や片づけに時間がかかり、喫食の時間が少ないことと、残食や食品廃棄の認識、いわゆる「もったいない」という意識についても低い傾向にあります。

準備や片づけの時間については、中学校給食運営委員会においても短時間でできている学校の事例発表や情報共有を行っている状況であります。これらのアンケートの集計結果に基づき、新しいメニューによる試験調理の実施や、うまみ成分であるかつおぶしの割合の多いだしへの変更などの調理改善に努めています。

なお、今後の計画といたしましては、給食にもっと興味をもってもらうために、生徒の要望による「リクエスト献立」の実施や生徒を対象とした食育講演会に給食の栄養摂取基準や食品ロス、残食の内容を取り入れ、給食について改めて考えてもらう計画をしております。

また、御飯の保温温度ですが、季節や気温によつての炊飯の攪拌時間もさらに研究し検討してまいります。

次に、質問二つ目の給食無償化につきましては、これまでも答弁申し上げているとおり、子供たちに安全安心で栄養価に配慮したおいしい給食を継続して提供するため、食料費の負担は保護者の方をお願いしているものであり、これはPTAの方にも参加をいただく学校給食委員会などの会議の場でも説明をさせていただいており、一定の理解を得ているものと考えております。

多子世帯への支援につきましては、こちらも従前の答弁と重複いたしますが、財源や支援の枠組みの検討が必要であるため、しかるべき時期の給食費改定の際に、あわせて実施を検討したいと考えるものであります。

続いて、4つ目の質問、町独自の給付制奨学金増額をの御質問にお答えをさせていただきます。

本町の奨学金については、広陵町奨学資金支給条例の定めにより、月額5,000円で年間6万円を給付するというものです。議員の御質問にあるとおり、今年度につきましては、当初予算で50人分の300万円を計上しておりましたが、22人の受給者数で132万円の給付となったため、予算残額168万円を減額補正させていただくものでございます。

まず、奨学金の周知方法についてですが、各中学校から中学3年生全員に奨学金制度の案内文を配布させていただき、その際には、学校からも保護者への声かけをいただくようお願いをしておりますので、制度の対象となる方には周知できているものと考えております。

また、参考までに奨学生の決定につきましては、給付の対象範囲の中で、申請いただいた方を学校長が推薦し、教育委員会を経て町長が決定することとなっております。

次に、町の奨学金増額については、さきにもお答えさせていただいたところですが、本町の奨学金は年間6万円で、この金額は返還を必要としない給付型で行っております。県内の状況では、返還を必要とする貸与型での実施が多く、給付型での実施は、令和元年度は御所市と本町の1市1町だけとなっております。加えて、本町の奨学金は、その他の奨学金制度を受給されていたとしても併用して受給していただけるものです。

議員御提案の金額の増額については、さまざまな社会的背景や教育への必要経費から今後の検討事項であると考えますが、現状はこういった給付型の奨学金は、将来の返還への負担感もなく高校生活を支援する一助となっていると思われまます。

奨学資金支給制度は、全ての意思ある生徒が安心して教育を受けられるよう、また授業料以外の教育費負担が軽減できるよう支援する制度と認識しておりますので、必要な方に制度を利用していただけるよう、これまでと同様の周知方法とともに、適切な情報発信を行い、今後も継続して実施してまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（奥本隆一君） 自席からの2回目の質問を許します。

山田議員！

○3番（山田美津代君） 事業計画書を見ていたら、平成30年度と書いてあったので、それ聞こうと思ったんですが、御答弁の中に、社会資本整備総合交付事業の新規採択を受けたが、内示額が少なかったもので、平成31年度の交付金とあわせて、令和元年度に委託契約しておりますと説明が書いてありましたので、それは、平成30年度からという分は、それでわかりましたけれども、この拡幅ありがとうございます。少しだけ広がるということで。大和高田市のほうは、幅員は約4.7メートルとなりと書いてございますが、この拡幅で町道は、広いところでは1メートル程度となるとありますが、大体何メートルにな

るんですか。何メートルの道路が大体何メートルぐらいになるんですか。この大和高田市は4.7メートルとなると書いてありますけれども。

○議長（奥本隆一君） 中川理事！

○理事（中川 保君） 大和高田市側は、前回の質問でも答えたと思うんですけれども、現状がもともと3.8メートルぐらい、4メートルなかったところを中和幹線が整備されたのを受けて、地元の松塚区から周辺農地の利用、利便性向上ということで要望があって、路肩の擁壁を改修するという形で1メートル拡幅されて、4.7メートルになっているということです。

広陵町側は、既におおむね4.7メートルあるんです。でも、大和高田市と同じように、路肩の擁壁がちょっと段差ができてしまっていて、路肩が十分使えなくなっているんで、同じような形で町道側も幅員を広げたいなと、そういうふうなやり方で。基本的には、現状4.7メートルぐらいはあるんで、1メートル少し拡幅して、できるだけ6メートル以上の幅員を確保したいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） ありがとうございます。

この要望を、私、平成28年9月に質問しまして、平成29年3月には、地元の濱野議員が質問しているわけですね。それから4年たち、前に進める検討をさせていただいて、本当にありがとうございます。大和高田市と協議をしているということも回答にございましたけれども、担当部局との協議では、自転車、歩行者の安全な通行確保に向けてという、引き続き、互いの事業進捗の状況を共有して整備を進めることを確認しております。私、私の要望としましたら、1メートル広げていただいて少しは通りやすくなって、本当に百済の方も少しは通りやすくなるかなと思うんですけれども、水路をやっぱりボックスカルバートなどをして、自歩道のようなもっと広い道にしてほしいという要望をしているわけなんですけれども、その辺を大和高田市とのほうで協議をされているのかどうか。

水路は、水利組合との話し合いとかあるので、そういう話し合いをされたのか、底地は町だと思しますので、水路の底地はね。だから、その辺を加味していただいて、そういう大和高田市との話し合い、そして水利組合との話し合いとか検討されたのかどうか。もっともって広げてほしいという要望なんですけれども、一応の前進はしていますけれども、これでは、やはり大和高田市のほうを4.7メートル、1メートル広げて、電信柱があって、少しは通りやすいけれども、なかなか交互に自動車通って、そこにまた自転車が通

ってという、バイクが通ってという、やはり転落の心配があります。ですから、やはり水路を生かしていただいて、あそこにボックスカルバートなどをして、もっと広げていただくという工夫はなされなかったのかなと思うんですけども、その辺いかがでしょうか。

○議長（奥本隆一君） 中川理事！

○理事（中川 保君） 大和高田市との調整につきましては、大和高田市側、ほぼ4.7メートルを基準にした拡幅をされているんですけども、若干残っているのが100メートルほど残っています。その部分の整備については、町からも要望していきまして、大和高田市も検討すると言うてくれているんですけども、広陵町側の進捗とあわせて、状況を見ながら対応させてほしいというふうに言われています。予算要求を挙げてもすぐつかない場合もありますんで、そういった部分で、また町として協力できるところがあるのであれば、しなければならぬのかなというふうには考えているところでございます。

それから、水路をふたしてという話なんですけれども、今現状で、大和高田市側もかなり通りやすくなっていると思うんですけども、今、大和高田市側が整備されたのは、やはり中和幹線が整備されて全部つながって、ちょうど京奈和と中和幹線の交差点のところが今平面交差になっているんで、非常に渋滞するんで、抜け道として、あの道、今の百済3号線を使って田原本の北方面へ抜ける車が非常にふえているということで対応されていると思うんで、今、京奈和、立体化するための工事がどんどん進んでいるんですけども、その後には、かなり改善されると思われまので、今急がなければならないのは、一日も早く安全にということなんで、今考えているような路肩擁壁を変える形で、地元の同意も得やすく、スピード感のある整備を進めるのが一番じゃないかなというふうにご考えておりまして、こういう計画させていただいています。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） それはスピード感を持っていただいて、少しでも広げていただくということは、やはり安全な通行ということで、それは大変ありがたいんですが、もっと広げる計画というのをこれからも、大和高田市なり水利組合なり、やはりもうちょっと予算もとっていただいて、計画をこれからもおし進めていただきたいと思います。これは、このぐらいにしておきます。一定の進展がございましたので。本当にスピーディーにさせていただいてありがとうございます。

それと、一つ言い忘れまされたけれども、やはり東小学校区も開発が進んで、移り住んでくる方も多いので、やっぱりこの道の御要望というのは、すごくこれからも強くなるので、その辺も加味していただいていると思いますけれども、よろしく願いいたします。

次の質問事項2にまいります。

デマンド交通ね、これ必要不可欠ということなんですが、元氣号が10月に改変されて、町民の不満続出されることは、余り届いていないような回答でございますね、不満が。何か表彰もされたいとかいって、下にも表彰状張ってありましたんやけれども、もう全然、町民との間の乖離が激しいなというふうに思うんです。たくさんの方々が不便になった。古寺町営住宅にもバス停つくっていただいたのはありがたいんですけども、あんな遠くのバス停では、歩いていくのに遠過ぎると、これも不評なんですよ。せっかくつくっていただいたら喜んでいただきたいですよ。でも、古寺町営住宅の中に入れなくていいこと、道のところにつくっていただいていますけれども、これ、やはり中につくっていただいたら、もっと喜んでいただいたん違うかなというふうに思うんですよ。なぜ住宅内に停留所つけれないのかなと思うんですけども。停留所が変わって使いにくいとか、それから時刻が変わった、行はいいけれども帰りが困る。不便になった。そして、先ほども質問の中にも入れていましたけれども、不便になったのに100円高くなった。これ、これだけ不満が、私は、行くところ行くところ、もう本当に不満だらけなんです。予約式乗合タクシー、香芝市でやられているんですよと言ったら、こんなんあったらね、本当に便利になるのになというお声ばかりなんです。なぜ、そういう中で広陵町が表彰されたのか世界の七不思議としか思えないんですけども。使うのは町民なのに、町民の意見や反応など聞かずに表彰を決めているとしか思えないんですけども、まず、町営住宅の停留所のことからちょっとお答えいただけますか。

○議長（奥本隆一君） 奥田企画部長！

○企画部長（奥田育裕君） お答えをさせていただきます。

山田議員からは、まず、元氣号についての不満が続出しているということで、届いていないのかということでおっしゃっていただいたわけですけども、昨日は、便利になったという方もいらっしゃるというようなお声も聞いておりますので、そのあたりは、不便になったという方も、便利になったという方も、どちらもいらっしゃるのではないかとということで、私ども理解をさせていただいております。

それから、御質問の町営住宅になぜ入れないのかというところでございますけれども、これ、まず一つは、堤防のところでございますね。あちらが通行規制がかかっているのが一つ問題がございます。それから、町営住宅の中に駐車場がございまして、そちらのほうに、やはり住宅にお住まいの方々の出入りされる車両とバスとがやはり重なってくるということで、安全性の確保の面からも問題があるということで、事業者のほうから伺っておりますので、今の現状の中では、町営住宅の内部に停留所を設けるということは、やはり安全対策上問題があるということで、少し避けたいということで聞いております。

以上でございます。



○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） あれだけ広かったら、そんなに中に入って、バックして出てくるのに危険ではないと思うんですけどもね。私は、そういうふうと思うんですけどもね。これもちょっと検討していただきたいなと思います。

それと、元気号の予算6,900万円組んでいますけれども、この元気号を朝と夕方、先ほど中央幹線は、すごく好評やという御回答がございましたけれども、中央幹線は、そしたら残してもいいかなと思うんですけども、元気号、朝と夕方、デマンドを大体お昼ごろ通るときに、私こうやって見る、暗くて見にくいんですけども、本当に空で走っているという、町民の方々のお声もあります、お昼間は。お昼間にデマンドを予約式乗合タクシーを走らすことで、今の予算内で、このデマンドを実施できるようになるんじゃないですか。朝と晩と中央幹線だけ残して、そして、お昼の間は、必要な方が必要なところに行っていただく予約式の乗合タクシー、これを使っていただく、このようなことをしないと、回答には、免許証返納に関しては、返納後の移動の全てを行政が担うのではなくというふうなことがありますけれども、全てを担えとは言っていないんです。やはり高齢者とか、それで安心して免許証返納できる、こういうことは、やはり行政が担うことではないでしょうか。ささえ愛を今後の課題で話し合いが行われる中で、地域課題の一つとして、高齢者の移動についても議題に挙がるものと考えておりますみたいな、これ人任せじゃないですか。ボランティア任せだと思うんです。やっぱり町がきちんと交通インフラの責任持つべきではないかなと。何かすごく逃げているような回答ですね、これね。

効率的かつ便利で持続可能な広陵町の公共交通のあり方について複合的に研究し、よりよい公共交通サービス提供してまいる所存でありますといったら、もうやはりこの予約式乗合タクシーを導入するしかないんじゃないですか。この言葉どおりするんやったら。いろんなところで、きのうの質問の中にも、教育のことも何でも、香芝市と連携、香芝市と連携というのを何回もお聞きします。その中で、なぜこの公共交通だけ香芝市と連携を検討されないのか。その辺、私すごくこれも不思議に思うことの一つなんです、香芝市でやられているデマンドタクシーの乗り入れね、広陵町までの。これを香芝市と話し合ったことあるんでしょうか。

○議長（奥本隆一君） 奥田企画部長！

○企画部長（奥田育裕君） 御質問にお答えをさせていただきます。

香芝市とデマンド交通の件について話し合ったことがあるのかということでございますけれども、香芝市さんとは、デマンド交通の状況について伺っております。それ以外の公共交通についても、担当者がどういうふうな状況かということで伺っております、その

件につきまして、12月の議会の際にもお答えをさせていただいたとおりでございます。繰り返しになりますけれども、利用者数の状況としましては、コミュニティバスの利用者数が年々減少傾向にある。その一方で、デマンド交通というのが年々増加をしているというところで、これはコミュニティバスだけじゃなくて、既存の路線バスの乗客の取り込みも発生しているというような状況であるというふうに伺っておりますので、このあたりのやはり問題がございますので、広陵町として、香芝市のこの現行のシステムを、議員がおっしゃるように、広陵町の中にそのまま取り入れるというのは、やはりこれは難しいところがあるかと思えます。広陵町におきましても、同じように路線バスの恐らく取り込み、コミュニティバスの乗客の取り込みになりますので、路線バスにつきましては、その分の赤字補填がまずふえる。それから、何よりも、おっしゃっていただいているデマンド交通、恐らくドアツードアでタクシーというやり方だと思うんですが、このデマンド交通自体がタクシー事業者の経営を圧迫するという面もございます。といいますのは、デマンド交通を受ける委託事業者のタクシー自体はありますけれども、それを受けないタクシー事業者というのは、当然、費用面で差がありますので、そちらのタクシーを利用しないということで経営を圧迫する。それから、デマンド交通を委託されているタクシー事業者につきましては、これはやはり行政主導でやっておりますので、それほど利益率がいいとは言えない。むしろ、いろいろ乗り合いという形になれば、それだけの経費がかさむというところで利益率が薄くなって、それを例えば都市部であれば、流しのタクシーであるとか、深夜帯の時間帯に運行することで、そういった面を補填するということができますけれども、都市部でない我々のようなこういった地域にありますと、やはりダイレクトにそういった経営に響いてくるというような問題というのが指摘されておりますので、そのあたりも含めまして、引き続き、しっかりとした検討、研究というのは行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） 今の部長の御答弁をお聞きしていると、路線バスがこのデマンドによって、少なくなるとか、タクシー業界が圧迫するとか、一体どこ向いて町政やっているんですか。町民の足の確保が一番大事なことじゃないですか。それ忘れていませんか。じゃあ、どうやって高齢者80代、90代の方、今、無理して運転されているわけですよ。どうやったら、そういう方たち免許証をじゃあ返納しようかという気持ちなるんですか、今の元気号で。このささえ愛でボランティアに頼ってやっていけると思いますか。この予約式乗合タクシーが導入しないんだったら、じゃあ、ほかの方法、こんなボランティアに頼るしかないということですか、今の町の考えでは。80代、90代の高齢者の方が免許証を安心して返納できる策があるんだったら言ってください。

○議長（奥本隆一君） 奥田企画部長！

○企画部長（奥田育裕君） まず、議員のほうからは、町民の方のほうを向いていないというような御指摘をいただきましたけれども、町民の方にとってのデマンド交通、先ほど私デマンド交通のデメリットという点で、いろいろなこととお話させていただきましたけれども、まず町民の方にとっても、このデマンド交通というのは予約型になるわけです。御利用される方が主に高齢者ということで。そういった予約するというシステム自体が果たして高齢者の方にどれだけなじみのあるものかということなのです。ということは、結果的に、これは使う方というのがやはり限られて、議員がおっしゃるように、いつでもどこでも呼べばすぐというような形でのデマンド交通にはならない恐れというのは十分考えられます。使う方が結局限られてまいりまして、全ての方に行き渡るような形にはならないという可能性もございます。

それから、全ての移動する手段というのを元気号でというのは、これはやはり無理だというのは、私どもも重々承知をしておりますので、やはりそこは公費面、費用との兼ね合いもございますけれども、そこばかりに目を向けるのではなくて、やはり違った福祉的な面から、それから答弁のほうにもありましたけれども、地域のほうで支え合う、そういう移動に関して、何かフォローしていただくというような制度を入れない限り、全ての移動を公共交通で賄うというのは、これは無理なことでございますので、そのあたりをやはり複合的にこれからしっかりと検討していく必要があると、そのようには認識をしております。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） やっぱりボランティアでかわそうとしか思っていないわけですね。町がやはり責任持って、公共交通、インフラ整備するべきですよ。そこ逃げてはいけませんよ、本当に。今、部長がおっしゃったように、元気号ではカバーできないことは、もうようわかったと思います。やはり町民の方は一日も早く、この予約式乗合、予約が高齢者にとってできないとか、そんなことないと思いますよ。香芝市でも、ほかでも三郷でもやられているんですから。それはちょっと違うんじゃないですか。予約して忘れてしまったということもあったということは聞きますけど、やっぱりそれは数少ないと思います。この予約式の今のやり方を前進させて、高齢者の方が安心して免許証を返納するには、やはりこの予約式の乗合タクシー、これを一日も早く導入することが必要だという認識に一日も早く立っていただきたいと思います。

これ、八尾議員からバトンタッチされて、きょう質問していますね。次に、午後からかな、青木議員も質問されますので、バトンをタッチいたしますので、次、青木議員、よろしくをお願いします。

では、給食に移らせていただきます。

このアンケートの聞き方ですけれども、これ皆さんタブレットで見られていると思うんですけれども、問7で、学校給食は、次のいろいろな基準をクリアした上でつくられているのは知っていますか。塩分量、エネルギー摂取量、野菜の摂取量ですね。問8では、御飯の残食数が約17トン、お茶わん8万5,000杯分もあるのを知っていますか。この残食の処理にコスト及び環境に負担がかかっていることを知っていますか。この聞き方って、すごい私、上から目線のように思うんです。何かすごい残食出して悪いんやなというふうに思わせているように思うんですけど。給食は、いろいろな基準もクリアしてつくっているんだ、食べ残したらコスト負担かかるんだから、残さず食べるようにと、子供たちは威圧的に感じたんじゃないでしょうか。

以前に、このアンケートをつくっていますときに、ちょっと案をいただいたことがあるんですけど、そのときの問7は、給食は残さず食べていますかと聞き、全部食べる、残すときがある、よく残すとなっていました。この優しい聞き方がこんなふうに変えられているのはなぜかなというふうに思うんですね。残食の啓発、これ啓発ですよ、問7と問8はね。この啓発は食育の授業でやられたらいいと思います。それなら生徒たちも素直に聞けるんじゃないでしょうか。

それで、御回答に、給食をおいしく感じる。普通という方が70%を超えているということがありましたけれども、この結果、青いのが給食がおいしく感じる。6校でたった17%です。普通に感じるが54%、合わせたら7割になりますけれども、おいしいと感じているのは17%しかないんですよ。ここをしっかり見るべきじゃないですか。だから、この聞き方、なぜこんな聞き方になったのか。それと、このおいしいと感じているのが17%だということ、これちょっと御回答もう一度いただけますか。

○議長（奥本隆一君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） まず、アンケートの聞き方がよろしくないということですが、これは今結果のグラフを見ていただいている中ですけれども、資料には、アンケートのいわゆる設問の全てをペーパー1枚でつけさせていただいております。その冒頭に、近年、食品ロスが社会問題になっていますと、中学校給食も例外ではありませんということで、ここに丁寧にこの趣旨を説明させていただいております。その言葉の何ていうんですか、優しい、優しくないとかいうようなもの、その辺、確かに配慮がなかったかと言われたら、完全なものではないにしても、今このアンケート、この食の残食ということに関しては、一定の時期にきております。ゼロに近づけるということで、生徒

も大変よく理解してくれていると思いますので、そのことについては、その御理解でお願いしたいと思います。

それと、おいしいと感じているのが17%、普通というので7割超えている71%でございます。香芝、広陵で6校、中学校のトータル、統計的にそのような数値になってございます。確かに、給食はおいしいか、おいしくないかと聞くと、子供は、普通とか、まあまあとか、こういう答えで返します。そしたら、それでいいのかなというふうな認識で当局は思っておりません。確かにおいしくするように、これからいろんな取り組みの中で、給食についてのリクエストの献立であるとか、食材をよりうまみのあるものに変えていく、そういう流れの中で継続して、おいしく感じるというのが、おいしいが7割というふうになれば、もう我々としてはうれしい限りでございますねんけれども、そのようにもっていくという、その姿勢は変わりませんので、どうぞよろしくお願いいいたします。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） それと、アンケートの項目で、おいしかった献立を聞いているのに、回答は、カレーライスが献立ですね。あと揚げパン、フルーツ、御飯、パンの順で、献立名が書かれていないのはなぜなのでしょう。おいしい献立はカレーしかないということですか。ここのところはどのように分析されていますか。献立名が書かれていないんですよ。私、前に試食したときに、揚げ鶏のレモンソースがけ、あれおいしかったんですけどね、そんなの全然書かれていないんですよ。あのとき、焼きそばと、それから大根のサラダ、あれはちょっと全然おいしくなかったんですけど、揚げ鳥のレモンソースがけなんかおいしかったんですけど、量はすごい少なかったです。中学生の男子には。とは思いましたけれども、そういうおいしい献立名がカレーライスしか書いていないというのは、どうということなのかなと思う。その辺どう分析されていますか。

○議長（奥本隆一君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 子供に全てのもちろんメニューとして、放送等できょうの給食は何々というようなどころでは言うてるんですけども、今、議員おっしゃったように、揚げ鶏のレモンソースがけとか、そういう名前まで記憶に恐らく残っていないと。カレーがおいしいと、昔のことを言うわけではございませんけれども、カレーおいしいというようなどころ、そのような認識だと思えます。聞き方として、これ例えて言ったら、ひと月の献立表を渡して、何がおいしかったかと、そういうふうに聞けば、具体的名前が出てくるやもしれません。ただ、統計的に私どもが見たかったのは、御質問ではございませんけれども、御飯でございます。御飯おいしいというのの4位でございます。そやのに、2位に御飯を残したというところで、これについて、ちょっとしっかりと調べ

なければいけないということで、議員の質問にもありますように、食缶の下になる部分については、若干水分を吸いますんで、びちゃびちゃになると。子供の言葉で言われますと、きょうははずれやと、当たりとはずれのはずれやというような表現もあるというふうには聞いてございます。そうか、時間が足りないのかというようなことも考えられます。時間が足りないということであれば、香芝市の某学校については、2年生は非常に早く準備をします。チャイムが鳴ってから何分以内で食べるんだというようなことで、タイマー入れて競争するんだというような事例もお伺いしております。広陵町も負けず劣らずそういういろいろマクアルというようなこともやっておる中で、時間との兼ね合いが出てくるわけでございますけれども、何分以内にいただきますするんだというようなところ、それで、もうなおかつやっぱり御飯が残るのかというところで、これは命題として研究をして、そのような形、残食がゼロに近づけるように、おいしいと言うてもらえるように、先ほども申しましたけれども、そういう努力は、センターとしてしっかりやらせていただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） 回答で、リクエスト献立の実施とかしたいと書いていますから、やはりそういう聞き方を変えて、もう一度、献立聞いてみたらどうかなというふうに思います。それと、この残食を減らすにはどうしたらいいかの以前の回答で、「味をよくする」、「メニューを変える」というのが多かったと聞きました。ちょっと私だけいただいた部分かな。「味をよくする」、「メニューを変える」が多かったと聞いているんです。やはりもっとおいしくする工夫がいると思いますね。子供たちへのお茶わん8万5,000杯分、残食どうなんやというふうな啓発をする前に、残食を減らす努力、そういうのいりますということをおっしゃったんで、そこは十分御承知されているんですけども、もう3年以上もたつんですから、運ぶ容器、やはり下がびちゃびちゃになるような容器をいつまでも使っていないで、ちょっと容器を変えるとか、びちゃびちゃにならない工夫というのをしているかといけないんじゃないですか。もうわかっているんですから。下がびちゃびちゃになって、はずれのときがあるという、子供たちも言っているんですから。そしたら、8万5,000杯分も残食あるというのが改善されるんじゃないでしょうか。

以前、私ためしてガッテンたまたま見ていたんですけども、炊き立ての御飯をお釜から出して、おひつに移すと粗熱がとれて御飯が引き締まり、どんどん出てくる湯気をおひつ自体が吸い取ってくれるので、中の湿度を一定に保ってくれる。それでべとつかず、ふっくらした御飯になる。おひつにかけるお金がもったいないなら、ひと手間かけることです。温かい御飯をうちわなどで仰ぎ、余分な水分を飛ばす、そしてひっくり返して、裏の水分を飛ばす。湯気が出ないぐらいがちょうどいいそうです。このひと手間が、もちもち

感が増して、甘みを感じるそうです。冷ました御飯は雑菌が繁殖する30から40度の温度帯を素早く通過し、余計な水分が飛んでいるので、結露も生じにくいいため、より安全になるそうなんです。こういう工夫をされることを御検討していただきたいと思うんですけども、この方法を使わない手はないんじゃないでしょうか。このひと手間はもうかけられないんだったら、他の方法を検討していただきたいと思いますが、何かございますか。

○議長（奥本隆一君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 先ほど私、わかっていたできるようにびちゃびちゃと言いましたけれども、そんな極端なものではございません。御飯の硬さそのものについても、やっぱり好みもあると思います。議員御指摘のように、そういったものも取り入れればということで、答弁のほうにも書かせていただいております。食缶が必要であれば、新しいそういうふうなものが必要であれば、これは購入もいたします。ただいま私どもが取り組んでおるのは、食育の講演会等でも、教職員の先生も対象にすると。それと御飯のお話ですけども、トータル残食というところで、映像で、食べられるもんが何も悪いものでもない、食べられるものが捨てられるというようなところをビジュアルで見せるというようなものもやっぱり印象に残るということで考えてございます。

リクエスト献立についても、今やり方いろいろ検討しておりますけれども、例えて言うたら、第1回目は、仮に広陵中学で一番人気のメニューはこうだというところで、そういう取り組みから始めていきたいと考えてございます。必要な設備といいますか、そういう食缶等について、今までも配食に時間がかかるということであれば、しゃもじとかを一つではしんどいということであれば、加えてやってまいりました。必要であれば、そのように対応をさせていただきます。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） ぜひ、ちょっとおひつ検討してみただいて、子供たちがおいしい御飯を食べれるように、ぜひ工夫して、変えられるべきものは変えていただきたいと思えます。

ちょっと質問事項でないんですけども、コロナで給食が今とまっていますね。食材料費とか、食材料はどういうふうにさばいておられるんでしょうか。やっぱり中学校やったら4,000食ですよ。小学校の分も準備されたものがあると思うんですけども、何かコロツケ屋さんとか1,000食のコロツケどうにかしたとか、いろんなネットニュースでも挙がっていますけれども、給食の食材料費は、どういうふうにされるおつもりなんですか。この学校の1カ月の休止ということ。

○議長（奥本隆一君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） まず、食材について、納入業者さんのほうに御協力をいただいて、とめていただけるものについては、極力とめていただくと。どうしてもとまらんものがございます。それにつきましては、これこそもったいないのきわみでございますけれども、全国的にはちょっと時事通信のデータなんかを見ていると、役場の前で販売をしたと。役場というか、役所の前で販売をしたということもございます。ただ、これも賛否両論がございます。そんなん悪いものではないわけで、趣旨は十分理解できるんですけれども、やっぱり給食というようなカテゴリーの中でいいますと、やっぱり残ったもんは、これはもう処分をするのが正解とは言いませんけれども、その流れだと思えますけれども、私どものほうも、一旦職員のほうで何ぼということではないですけれども、そういうふうなことも計画しましたけれども、あとフードセンター等にも問い合わせをする。町内の介護の施設等でも、無理にはないですけれども、聞いて、もしそれをお使いいただけるのであればというようなところも今考えてございます。

それと、保護者の皆様方につきましては、これも文書ではもうお持ち帰りをいただいているわけですが、きのう1日については、いわゆる3時間であるとか、4時間の短縮事業で帰って、給食を食べていただいております。1日は食べてもうたんですけれども、今このときに、ひと月分をもうお返しをすると、3年生卒業していくような中学生とか、それについては、もうお返しをする。在校生については、翌月の振りかえにさせていただくというところに対応させていただいております。

以上でございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） いろいろ教えていただいてありがとうございます。

給食費の無料のことなんですけれども、御答弁にしかるべき時期に給食費改定の際に合わせて実施を検討したいというふうに書いてあるんですけれども、給食費は値上げをしないで、給食費無償にしてほしいと言っているのに、何で給食費値上げの時期なんだろうと思うんですけれども、やはり今子育ての世帯は本当に大変なんですよ、お金いっぱいかって。日本は特に。ですから、給食費を無償化にしてほしいと言っているのに、値上げを考えるなんてとんでもないことだと思うんで、値上げをせずに、多子世帯への支援から300万円できるというのをなぜすぐできないのかなと思うんです。なぜすぐできないんですか。

○議長（奥本隆一君） 池端教育委員会事務局長！



○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 確かに、大阪市でもそのような形を検討されておるといふことで、今現状、値上げ、消費税の関係がございましたけれども、それを見送っております。やっぱりどこに税を投入するかという議論になってまいると思います。研究をしてみたいと。多子軽減についても、実質的にもう一步深く掘り下げますと、300万円では無理でございます。実際、小中学校を全部合わせますと、その倍ぐらひは要るのかなというふうには考えてございます。研究はしておりますし、また、議員の皆様方にもお諮りをしたいというふうに考えてございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） 時間がないので次にいきますが、300万円と言ったのはそちらなんですからね。それが600万円になる。何でこんな急に倍になるのかなと思うんですけれども、300万円言ったんだから、300万円で多子世帯の支援していただきたいと思ひます。

給付型奨学金ですけれども、12万円に支援してほしいんです。公立高校の学費45万円、私立高校は96万円、大変なんですよ、お金かかるんです。ここに、やはりことし4月からは、私立の就学支援金の上限が引き上げられ、4人家族で590万円未満が対象に支援されますが、これにもれた世帯への支援も要ると思ひます。今の町の奨学金についてのお知らせを読みますと、支給条件の4番目に、将来有能と目される者で、特に経済的理由により正規就学困難と認められるものとかいうのがあるんですよ。ほかには、本町に3年以上引き続いて住んでいる者とか、品行方正とか年齢修学に適する者とか、それで4番目に、特に経済的理由により正規就学困難と認められる者というがあるので、自分は該当しないと、これ全家庭に配布されておられるということですが、22人しか該当していないわけですよ。だから、もっともっとやはりこのことがなければ、もっと自分も該当するんじゃないかなと思ひますけれども、この4番目のこれはどうしても要るものでしょうかね。

○議長（奥本隆一君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 条例の規定でございます。規則に委任しているものもございますけれども、このような流れの中でやらせていただいております。ただ、これ希望です。申請といいますか、案内をして、これを御要望というか、希望されるお方について出すという点について、もう一度御認識をお願いしたいと思ひます。仮に6万円が12万円になったからというて、そしたら申請しようかというようなものではないと、私の私見ですが、そのように考えてございます。

○議長（奥本隆一君） 山田議員！

○3番（山田美津代君） 町の財政調整基金条例改正などして、土地開発公社への手厚い援助を考えているのなら、こういう子育て支援の財政支援策をもっと充実させるべきだと思います。これは御回答は結構です。

これで終わります。